

はじめに

東北大学サイバーサイエンスセンター
センター長 曾根 秀 昭

全国共同利用施設として高性能計算やネットワークなど先端学術情報基盤の整備・運用と、これら先端学術情報基盤を活用した新しい科学(サイバーサイエンス)の創造に関する教育・研究を推進することを目的として、平成 20 (2008) 年 4 月に情報シナジーセンターを改組してサイバーサイエンスセンターとして活動を始めてから 10 年が経過します。

本センターの運営と諸活動に関する詳細をご報告し、また、センターの活動の質の向上・改善に資するために自己評価・点検を行うために、それまでの「年報」を見直して、平成 28 (2016) 年度分から自己点検評価報告書を作成しています。本報告書を通して、本センターの運営と活動の状況についてご理解いただくと共に、本センターの今後の運営と活動展開に対するご指導とご支援を頂ければ幸いです。

平成 28 (2016) 年度から、東北大学の第 3 期中期目標・中期計画期間が始まりました。この期の本センターの中期目標の主な取組として、最先端の大規模科学計算システムと情報基盤に関わる研究活動について、「先端情報基盤とその整備・運用に関する研究を推進し、当該成果の学内外への提供並びに利活用の支援・促進に努める」ことと「先端情報基盤に関する研究の実施体制を整備・強化する」ことを掲げ、これに沿って戦略的に課題を設定して研究開発を実施することとしております。併せて、社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究について「先端情報基盤に関する研究の成果の利活用を支援・促進する」ことを掲げて、研究開発成果提供や地域社会連携及びアウトリーチ活動も含めて計画しております。さらに、「情報基盤の高度利用環境の整備及び効果的で効率的な運用を行う」目標のために、全学の研究・教育・運営活動の基盤となる最先端のキャンパスネットワーク及びその他の情報基盤の活用の推進と、共同利用・共同研究のための世界最先端の大規模科学計算システムの整備・提供を実施しております。また、本センターの教員は、研究開発から得られた最先端の知見により学生の教育を行い、特に実践的人材育成に取り組み、情報基盤への取組の知識と経験をもって学内と社会へ貢献しています。

これら、平成 29 年度の運営と活動の詳細及び自己点検について、この自己点検評価報告書に掲載しております。ご覧いただき、今後も関係各位のご指導とご支援を頂ければ幸いです。